

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>賢く 優しく 逞しく</p>	志木市立志木第三小学校
		平成30年度 第4号
		平成30年7月1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数7月1日現在 590名



叱ること・ほめること

校長 可知 良之

人から叱られた経験は誰にでもあるかと思いますが、やはり叱られるのは誰でも嫌なことでしょう。最近の一般企業での話ですが、上司から叱られたことで退職してしまう若手社員がいるという話を聞いたことがあります。せっかく苦労して入社したのに誠に残念です。一方、叱る側もパワハラと言われまいようにかなり気を遣いながら注意をしているとも聞きます。社会人になって初めて叱られたなどという人もいます。うすから驚いてしまいます。

子供たちが最初に叱られるのは恐らくご両親からかと思えます。親子の場合身近であるが故に感情的に怒ってしまいがちです。エスカレートして手や足が出て虐待といった事態に陥ることもあり、最近こうしたニュースが目立って増えています。叱ることはなかなか難しいものです。

叱るという教育的な指導は、教育の専門職である私共でさえ大変難しく、経験や知識、技術を伴います。理性を失い感情的になれば叱っているつもりが知らず知らずのうちに体罰になってしまうかもしれません。そうならないように常に専門的なスキルを身に付けられるよう訓練を行っています。京都市の教育センターが教師や保護者向けに「規範意識を育むほめ方・叱り方」という冊子を作っていてとても参考になります。その中で、どのようなときに叱るべきか書かれていますので紹介します。

- ①きまりやルールを守れなかったとき
- ②気持ちのよい挨拶や返事ができていないとき
- ③話を聞くことができなかったとき

- ④言葉の遣い方に気をつけられなかったとき
- ⑤思いやりの気持ちを忘れて人を嫌な気持ちにさせたとき
- ⑥助け合いができなかったとき
- ⑦感謝の気持ちを忘れていたとき
- ⑧人任せになっているとき
- ⑨投げやりな態度が見られたとき
- ⑩責任逃れをしようとしたとき
- ⑪うそをついたとき

＜叱り方のポイント＞

- 人間性を否定しないように具体的に叱る
- 一貫性をもって叱る
- 成長を促すために叱る

感情的になっていては決してこのような叱り方はできないことが分かります。

そして、叱った後が実は大切です。反省をし、その後どう行動したのか見届け、良くなったところを間髪入れずにほめる。叱りっぱなしでは心は育ちません。叱ることとほめることは一対になっているとは思いません。叱ることとはどこが良くなかったのか、何が間違っていたのかしつかり自覚し、深い内省を促すことに他なりません。きちんと叱りきちんとほめることで、どのように行動したらよいか、あるいはしてはいけないのかという規範意識を育てていくことに繋がっていくと思います。

子供たちは様々な人との関わりで大きくなっていきます。学校と家庭と地域の各々が叱ったりほめたりすることで良き人に育てていきたいと思っています。

参考「規範意識を育むほめ方・叱り方」

京都市教育委員会